広報やすぎ　平成２８年６月号

四コママンガ

むかしエッサくんと行く 昔さんぽ

柳地蔵さん

江戸時代、大凶作が続き、全国で食べ物が不足しました。安来でも米や野菜がとれなくて農民も町人も困っていました。町は食べ物を求める人や餓死する人、病気で倒れる人などであふれました。

西灘で回船問屋を営んでいた大笹屋の主人・茂七は、この様子に心を痛めていました。そして、ある決意をするのです。ある日、茂七から相談を受けた大笹屋の手代が、大笹屋にある松江藩の米蔵の石を外し中に入りました。そして、一俵、また一俵と米俵を運び出し、すべて貧しい人に分け与えたのです。米がなくなってしまったことがばれないよう、正面入口に米俵を残して蔵には一杯に米俵があるように見せかけていました。

ところが運悪く、関東の凶作を助ける役に松江藩が選ばれました。そして藩の役人が大笹屋にやってきて米蔵を点検したのです。すぐに蔵の中が空っぽであることがわかり、茂七は捕らえられてしまいました。ところが、大笹屋の手代が「旦那様は関係ありません。すべて私がやったことです」と話し、身代わりとなってかわいそうな最期を遂げました。大笹屋と町の人は地蔵堂を建て、柳地蔵と呼び、手代の働きに感謝して祈りをささげました。

▲中央にまつられているのが柳地蔵。

柳地蔵（安来町）

やすぎ再発見

国道９号から中町の路地を50㍍程進んだお堂に柳地蔵がまつられています。この通りは、納屋通りと呼ばれ、昔から手代や番頭ら商家の奉公人や料亭に出入りする芸者などが多く住んでいた場所でした。

お堂を管理する中町自治会は、このお話しを語り継ぎ、現在も年間を通して清掃を実施しています。また、毎年８月18日・19日はお堂周辺をちょうちんなどで飾り、地蔵祭りを催し、町内でお祈りをささげ、夜遅くまで語らいます。柳地蔵は、280年以上経ても人々に愛され、そして現在も地域活性化に多大な貢献をしています。

●資源保護のため、この広報紙は再生紙を使用しています●
●広報紙にあなたの写真が載りましたら、差し上げますのでご連絡ください●
●自治会宛の発送等につきましては、市民参画課（TEL23-3067）までご連絡ください●

PRINTED WITH SOY INK
R70 古紙配合率70%再生紙を使用しています

秘書課編集／安来市役所
〒692-8686 安来市安来町878番地2 TEL23-3010／FAX23-3161
ホームページhttp://www.city.yasugi.shimane.jp/ メール hisho@city.yasugi.shimane.jp